

## 2 各学部の令和4年度FD活動の概要報告

### (1) 家政学部

#### 1. 令和4年度家政学部FD委員会構成

委員長：矢野 博之（児童学科） 委員：原木英一（被服学科） 岩瀬靖彦 玉木有子（食物学科）  
須藤良子 林原泰子（ライフデザイン学科）  
大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：市川 博（家政学部長）

#### 2. 授業改善のためのアンケート

令和4年度も、UNIPA を利用しての WEB 方式とし、コロナ禍の影響もにらんで、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。

前期（実施時期：学期末）・後期（同、学期末）とも同じ設問構成とし、設問数全9問（選択式は6段階）により執り行った。回答依頼は、教員の任意とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。実施期間は、前期は令和4年7月11日（月）から7月23日（土）までで実施。後期は令和4年12月12日（月）から12月24日（土）までで実施した。

以下、「授業改善のためのアンケート」調査の実施とその集計、結果等、概況を記す。

##### ① 前後期実施状況

家政学部 回答者数／履修者数 前期：9,775名／29,711名 （回答率32.9% \*昨年50.3%）  
後期：9,547名／28,392名 （回答率33.6% \*昨年40.7%）

##### ② 総評：家政学部全体として

「満足度」(Q9)の平均点は、前期4.44、後期4.40であった。前年度は前期4.40、後期4.37であったことから、前後期ともに0.3ポイント以上上回る結果となった。また、「シラバスに基づいた授業」(Q3)の平均点は、前期4.70、後期4.71であり、前年度は前期4.62、後期4.64であったことから、前後期ともに上回った。

##### ③ 家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「家政学部共通科目」の前期については、多くの項目で全体の平均点を下回っている。

「授業への積極的な参加」(Q6)を見てみると、±0.1ポイント以上が多く見られ、バラつきが大きかった。

「満足度」(Q9)を見てみるとあまり大きな差がなく、全体を0.1ポイント以上上回る結果は見られなかった。

##### ④ 家政学部全体と授業形態別を比較して

傾向としては、「実技」「実習」は全体の平均点を大きく上回る項目が多い結果となった。「実技」では「授業外学習時間」(Q7)は全体の平均点を下回っている。「授業への参加」(Q6)を見てみると、全体を大きく上回る授業形態が多いが、「講義」については前後期ともに下回る結果となった。

##### ⑤ 家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

傾向は例年と同様で、「1～15名」が全体の平均点を上回る項目が多く、クラスサイズが大きい程、低くなる傾向にある。

「授業への参加」(Q6)を見てみると、「51～75名」と「101名以上」で全体の平均点を0.1ポイント以上下回っている。「満足度」(Q9)を見てみると、「1～15名」が前後期ともに全体より0.1ポイント以上高く、「51～75名」の後期で、0.1ポイント以上下回った。

### 3. 学部専任教員による FD 報告

今年度も昨年度と同様に、後期授業アンケート結果も示された後、令和 5 年 3 月の年度末（期間 3 月 10 日～3 月 31 日）に、下記の A～D の項目について、一人当たりの総記述量が 15～20 行（最大 800 字相当）に収まるよう報告文の作成を依頼し、各教員から FD 報告文を回収することとした。

質問項目については、昨年度のものを参考に、その後のコロナ禍等の諸対応の状況もにらみながら、令和 4 年度の状況をふまえ、FD 委員会にて検討した結果、昨年度と同等の設問を設定した。

以下 A～D の 4 項目の中から自由選択式で、記名入り報告文を各教員からメールにて回収した。

---

●項目 A：今年度の授業アンケート実施科目のうち 1 科目を選択し、その結果を踏まえた次年度以降の取り組みについて記して下さい。

●項目 B：コロナ禍にともなう授業実施形態の変更について、その方法と利点および問題点を挙げてください。

●項目 C：コロナ禍における授業の成績評価について、苦勞した点やどのように対処したかを記してください。

●項目 D：アクティブ・ラーニングを実施した授業があれば、その効果や問題点を挙げてください。

---

### 4. 本年度の家政学部 FD 委員会による主な報告・審議事項

令和 4 年 5 月 18 日（水）令和 3 年度「家政学部 FD 活動報告書」提出と学部教員への頒布（PDF 方式）

第 1 回家政学部 FD 委員会 連絡及び文書協議（5 月 11 日（水））：①「授業改善のためのアンケート」実施科目（案）の検討，②家政学部内 FD 研修会の企画検討について

第 2 回家政学部 FD 委員会 連絡及び文書協議（令和 5 年 3 月 1 日（水））：UNIPA による「授業改善のためのアンケート」実施結果をふまえた令和 4 年度 FD 活動報告書作成に向けての確認

なお、令和 4 年度の活動報告の詳細については「2022 年度家政学部 FD 報告書」を参照されたい。

「家政学部 FD 報告書」のアンケート分析については過年度同様、株式会社教育ソフトウェア社に外部委託し、令和 5 年 1 月 19 日（木）に発注、3 月 31 日（金）に納品された。

### 5. 次年度への課題と引き継ぎ事項

- ・家政学部としての学部内 FD 活動の検討と実施（\*コロナ対策の緩和が見えてきた上での、今後の FD 活動の在り方の模索と研修企画の立案）
- ・令和 5 年度の「授業改善のためのアンケート」の適切な実施のための委員会としての留意事項の確認、ならびに、アンケート結果からのフィードバック等活用についての学部内検討

以上

## (2) 文学部

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、令和4年度の文学部FD活動は、前年度に引き続き従来の活動予定を一部変更して実施した。例年、各学科ごとに「授業担当者懇談会」、「保証人と教員の懇談会」、「公開授業」、「学会活動」等を実施するが、「保証人と教員の懇談会」と「公開授業」については実施を見送り、その点では規模を縮小しての活動内容であった。他方、前年度より開始した学生懇談会については今年度も引き続き実施し、対面にて直接学生からの声を集約するという点で一つの要となる活動であった。

### 1. 学生懇談会

文学部学生との懇談会（「文学部学生懇談会」）を、10月18日（火曜）（12:20～12:50）にF棟542教室にて開催、実施した。その目的は、文学部の教育環境、授業、学生生活全般に関して、授業評価アンケート等では届かない多様な意見や要望を、学生との懇談を通じて集約することにある。学生は自由参加（事前の申し込み不要）であるが、当日は3名の学生（日本文学科3年生：1名、英語英文学科2年生：2名）が参加し、文学部FD委員5名が懇談に臨んだ。また、オブザーバーとして文学部長、英語英文学科長、コミュニケーション文化学科長、教育支援センター部長に御臨席いただいた。

事前の広報としては、ポスターを作成し、学生が目にしやすい本館および大学校舎A棟の各所に掲示した。また、各学科ごとにmanaba コースニュースや授業時に適宜案内を行い周知し、学生の参加を促した。懇談会当日は、会場設営の際新型コロナウイルス感染予防を徹底した。学生との懇談は昨年度と同様自由討議形式であるが、今回は学生からの意見・要望等を集約することに徹した。参加人数は少なかったが、各自、友人からの意見・要望を持ち寄っており、授業履修、キャンパスライフ、留学等について多くの意見・要望が披露され、充実した懇談会となった。

懇談会実施後、参加学生から得られた意見・要望等を整理し報告書「文学部学生懇談会：学生の意見・要望」としてまとめ、文学部長、日本文学科長、英語英文学科長、コミュニケーション文化学科長、文学部教務委員長、文学部学生委員長、教育支援センター部長、学生支援センター部長に報告した。内容を共有いただき、今後に向けての検討、改善に活用いただけると幸いである。なお、懇談会の開催および結果については、令和4年度第8回文学部教授会にて報告してある。

### 2. 公開授業

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しており、今年度も公開授業の実施を見送った。ただし、例年文学部将来検討委員会からの案内に基づく高大連携事業の公開授業は今年度も実施されている。

### 3. 保証人と教員の懇談会

千鳥会総会に併せて例年実施している保証人と教員の懇談会についても、今年度も実施されなかった。

### 4. 各学科の活動

各学科で行われたFD活動について報告する。例年実施されている授業担当者懇談会については、今年度も予定通り5月の時期に各学科にてオンラインで実施された（日本文学科：5月7日、英語英文学科：5月14日、コミュニケーション文化学科：5月7日）。学科ごとに実施スタイルは様々であるが、授業の進め方等を中心

に常勤・非常勤教員との間で様々な情報提供、意見交換がなされた。

その他、各学科ごとに、例えば、日本文学科の学科内FD研修会（3月5日）や、コミュニケーション文化学科での学科内意見交換会（3月4日）、さらに適宜学科会議等の場において、授業の実施方法や学生への対応等について様々な活動が行われた。

また、学会活動についても、引き続きコロナ禍の影響に配慮しつつ、新入生歓迎会、総会、講演会、例会、プレゼンテーション大会、レシテーションコンテスト、卒業論文発表会等、各学科学会にて様々な活動が実施された。

## 5. 授業改善のためのアンケート

例年実施されている「授業改善のためのアンケート」は、今年度も前期と後期の2回、前期は7月11日（月）～ 23日（土）、後期は12月12日（月）～ 24日（土）の期間に学内ポータルサイトUNIVERSAL PASSPORTにてオンラインで実施された。

アンケート実施科目（専門科目、教養科目、諸課程科目、外国語科目）は、前期578科目、後期574科目で、総科目数は1152科目であった。実施対象としては、これまでの方針に従い、少人数履修者科目や特殊な実施形態の科目のような例外を除いて、原則全ての授業を対象として実施された。

アンケート回答者数（括弧内は昨年度）は、前期8,891（13,080）名、後期8,598（10,012）名、総数17,489（23,092）名であり、昨年度より大幅に減少している。また、回答率（括弧内は昨年度）も、前期は36.51（52.27）%、後期は37.47（43.65）%、平均して36.99（47.96）%であり、これも昨年度からの大幅な低下を示している。今年度は学生へのアンケート周知を前期2回、後期4回行ったが、今年度の全体回答率（前期：34.07%、後期：33.73%、平均：33.9%）と比較すればやや高いものの、昨年度からの大幅な低下は深刻であり、今後さらに回答者数と回答率を高める方法を検討する必要がある。

なお、アンケート設問に対する回答結果としては、授業の進め方、授業成果、授業への満足度等について、昨年度同様に全体を通じて一定程度の高い評価が示された。他方、授業外の学習時間については、わずかながら昨年度より低い評価となった。この点については、昨年度に比べ今年度は対面型授業が相対的に増えており、おそらく授業外課題等の学習作業が総じて減じていることと関連するのではないかと推察される。

以上

### (3) 社会情報学部

#### 1 令和4年度社会情報学 FD 委員会構成

委員長 小野茂 (情報デザイン専攻)、委員：山崎志郎 (社会生活情報学専攻主任)、池田緑 (社会生活情報学専攻)、細谷夏実 (環境情報学専攻主任)、松本暢子 (環境情報学専攻)、市村哲 (情報デザイン専攻主任)、原田龍二 (語学代表)、オブザーバー：関えいこ (学務助手：庶務・記録)。

#### 2 本年度の FD 活動の概要

令和4年度は社会情報学部が組織的なFD活動を開始してから21年目にあたる。これまでの活動成果を継承しつつ、今年度は、本年4月より施行された新学習指導要領による高等学校の情報教育の大幅改定が本学部教育に与える影響と提示する課題を見据えながら、FD活動に取り組んだ。活動の具体化に当たっては、全10回の定期委員会と1回の臨時委員会におけるオンライン審議を中心に行った。また、委員会のメーリングリストとGoogle Drive上の共有フォルダの併用により、より緊密な情報共有・意見交換に努めた。尚、下記活動の詳細については、『令和4年度大妻女子大学社会情報学部FD活動報告書』に報告されている。

##### ① 学生との意見交換会の開催

11月17日、「入学当初の達成目的から見た社会情報学部の教育内容」をテーマに学生との意見交換会をオンライン形式で行った。交換会では、学生に大学入学当初考えていた目的を振り返ってもらい、その達成度の観点から社会情報学部のカリキュラム並びに授業内容に対する評価及び提案を受ける形を取った。

##### ② FD 研修会の実施

12月24日にFD研修会を実施した。テーマは、今年度からスタートした高等学校における教科情報の新学習指導要領への移行を受けて、『高等学校における「情報I」の教育実態』とし、大妻中学高等学校・情報科の教員である桑原先生から「大妻高校における新教科『情報I』の教育内容と共通テストに向けての受験対策について」と題したご講演を頂戴した。また、新課程移行に伴う受験動向に関して、駿台・ベネッセに対して当委員会が実施したヒヤリングの内容を紹介した。研修会は、昨年同様にオンライン (Zoom) 形式で行い、教員34名 (参加率92%、欠席3名) が参加した。なお欠席の3名も後日Zoomの録画動画を視聴している。

##### ③ FD 研究会の実施

FD研修会 (全学) 終了後、引き続きFD研究会を実施した。市村教授から「ハイブリッド授業の実施に向けた実践的ノウハウの獲得」についての報告があり、その後、参加者による質疑応答がなされた。

##### ④ 特定枠プロジェクト研究の実施

特定枠プロジェクト研究として、以下1件に助成を行った。

研究テーマ「PROG コンピテンシーテスト」

研究代表者：小野 茂

##### ⑤ 入学時学生生活調査の実施

新年度に入った4月、社会情報学部1年生312名を対象に、入学時学生生活調査をGoogle Formsを用いて実施した。回収率は87.2%と例年より低い値となった。

### ⑥ 卒業時の学生生活調査の実施

12月～1月に Google Forms を利用して、匿名性を確保しつつ、卒業時の学生生活調査アンケートを実施した。回収率は 44.8% で昨年より 5% 低下した。

### ⑦ 「より良い授業評価アンケートのための教育活動」への専攻別取組み

社会生活情報学専攻では、基礎ゼミにおいて、授業評価アンケートの回答の質を上げ、有効なフィードバック機能を果たす「良い授業評価」について討論を行った。環境情報学専攻では 1 年次前期の専門必修科目である「環境情報学基礎演習」においては、授業評価アンケートの位置づけやその目的などについて説明を行った。情報デザイン専攻では 1 年次必修科目「情報デザイン基礎演習」において、授業評価アンケートの意義の利害を深めることを目的としてグループ討論会を実施した。

### ⑧ オフィスアワーの周知

大学ホームページの教員紹介に掲載されているオフィスアワーの実施方法につき、対面形式とオンライン形式が併用される授業形態に応じ、時間割上、在宅で研究室に訪問できない学生の状況や、年間を通じた感染状況の不確実性を考慮し、授業、ゼミ、クラス担任別に設定されている manaba のコースニュースを通じてオフィスアワーの実施方法（特に、オンラインでのオフィスアワー実施の場合の URL 等）を周知し、例年通り 90 分の教員へのアクセスを確保することとした。

### ⑨ 授業評価アンケートの実施

全学 FD 活動の一環として、前期、後期にオンラインで実施した。

### ⑩ 授業評価アンケートに関する教員の意見の提出

従来からの取り組みを継続し、授業評価アンケートに関する教員の意見の提出を行い、とりまとめて全学部教員に配布した。

### ⑪ 休講の実態調査

例年通り、教員が提出した休講届を基に休講数及び補講による補充率を把握した。

## 3 その他

本委員会主催の保護者懇談会の実施を検討した。形式（対面・オンライン）、実施目的の絞り込みなどを審議した結果、Covid-19 の感染拡大に鑑み、今年度も見送ることとなった。また、学生と教員とのコミュニケーションの改善策について議論した。実態把握と平行して、改善策について来年度も引き続き審議を継続する予定である。

以上

## (4) 人間関係学部

今年度、人間関係学部は以下の通りのFD活動の取り組みを行った。

オフィスアワー オンラインと対面の組み合わせにより実施

授業担当者懇談会（社会学専攻）令和4年5月21日

（社会・臨床心理学専攻）令和4年5月21日

（人間福祉学科）令和4年5月21日

FD研修会（人間関係学部FD委員会主催）令和4年12月9日

保護者懇談会 令和4年10月29日

学友会代表とFD委員会・教職員との懇談会 令和4年12月23日

### 1) 学部FD研修会の実施

令和4年12月9日(金)に「今、教員が抱えているモヤモヤ」というテーマを3つの分科会にわかれ、それぞれの対面の座談会形式で話し合われた。3つのテーマは「多様性のある学生への関わり方」「ゼミの指導方法～授業の展開の方法、活動内容、キャリア教育など～」「教員の研究と大学教育の両立や展開の方法」。研修会の内容と参加者の意見については、令和4年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

### 2) 学生による授業評価

令和4年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。

### 3) 学友会代表とFD委員会・教職員との懇談会

教育の質の更なる向上に向けて、令和4年度においても、12月23日(金)に学友会代表と学友会委員の学生との意見交換を行った。意見交換の内容については、令和4年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

### 4) オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本年度は対面とオンラインの組み合わせにより実施した。

### 5) 非常勤講師との教育懇談会

例年前期に実施している非常勤講師との授業担当者懇談会を今年度も5月21日に実施した。教育懇談会の内容については、令和4年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

### 6) 各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員

会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

#### 7) 各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、令和4年度人間関係学部FD報告書の中でも各学科におけるFD活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

#### 8) クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和4年度人間関係学部FD報告書の中でも各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以上



## (5) 比較文化学部

本学部では主に、(I) 授業改善のためのアンケートの実施、(II) 授業担当者懇談会、(III) 父母・教員懇談会、(IV) オフィスアワーの実施に取り組んだ。紙幅の関係で、以下では主に (I) について詳細に報告する。

### (I) 「授業改善のためのアンケート」実施について

#### a) アンケート実施時期と実施方式

今年度は以下のような方法で実施した。

##### 【前期】

期間： 7月11日(月)～7月23日(土)

方法： 全ての対象科目において、学生はUNIPAからアンケート回答ができるようになっているため、授業担当者は該当科目の履修者に回答を促す。

##### 【後期】

期間： 12月12日(月)～12月24日(土)

方法： 前期と同様

いずれも、実施期間になるとUNIPAを通じて学生に通知され、学生はUNIPAにログインしてアンケートを実施するという方式が取られた。対面授業とオンライン授業が混合する中、UNIPAとmanaba双方に注意を払わなければならない学生がアンケート実施を見落とすことを懸念して、FD委員会より教授会で告知をおこない、教員からも学生のアンケート参加を促してもらうよう依頼した。

#### b) 実施対象：原則、ゼミを除く全授業で実施

比較文化学部には、通年、半期あわせて前期授業217コマ、後期授業212コマ（共に、3年ゼミの比較文化演習と、4年ゼミの比較文化セミナーを含む）が開講されている。開講されている授業は、講義、演習、語学等々さまざまな形態があり、受講者数も数名規模から200名近くまでさまざまである。そうした授業間の差異は集計結果を組み合わせることによってかなりの程度考慮、検討することができる。そのため本学部では、原則としてゼミ（3年ゼミに相当する比較文化演習ならびに4年ゼミに相当する比較文化セミナー）を除く全ての科目でアンケートを実施した。

#### c) 実施科目の受講者数と有効回答数

実施科目の受講者数は、前期20,750名である。うち、有効回答者数は7,505名(回答率36.16%)であった。後期の実施科目の受講者数は20,135名である。うち、有効回答者数は7,209名(回答率35.8%)であった。

#### d) 集計

回答の集計処理は外部業者に委託した。業者からは各授業別の集計結果だけでなく、授業方法別（講義・演習・講義演習）、区分別（外国語・教養・専門）、クラスサイズ別、言語別、学年別、担当教員の職名別、担当教員の年齢別、全授業の平均評定平均度数分布といった集計結果が納品された。これまで本学部の報告書には評定平均度数分布が掲載されていたが、昨年度以降、納入されたデータは学部ごとに集計・整理されたものではなく全学のデータとなったことから、今回のFD報告書（以下のfで説明）には掲載していない。

#### e) アンケート結果の伝達

授業単位の集計結果は、成績登録期間終了後に UNIPA から担当教員が直接確認することができるようになった。そのため、アンケート回答結果が閲覧可能になった時点で、UNIPA を通じて授業担当教員本人にその旨を告知した。

#### f) 教員からのフィードバック

上記集計結果について告知する際、集計結果に対する所感、感想執筆を全教員に対して依頼した。前期は専任教員 3 名、非常勤教員 7 名の計 10 名から、後期は専任教員 3 名、非常勤教員 4 名の計 7 名から応答があった。

#### g) 一連のサイクル実施の報告

従来、年度開始後（前期）のアンケート結果の概要につき、後期に開催される父母懇談会にて説明してきたが、近年は web で公開することができるよう、PDF 形式で FD 報告書を年度末に公刊している。

#### h) 公開するアンケート集計結果について

数値として算出される集計結果はそのまま報告書に公開しているが、学生による意見・感想を掲載することは、昨年度同様見送ることとした。学生による意見・感想には時に非常に示唆的なものが見られる反面、無責任あるいは感情的なコメントや授業期間中に教員とコミュニケーションをとって解決することができたであろう事案も見られるからである。一方、教員による所感・感想は、学生のコメントに対する応答でもあるため、表記統一と誤字脱字の修正を除いて原則編集せずに掲載した。アンケートが web 上で実施された結果、教員は自身の集計結果については即時に確認することができるようになった。ただ、同じような集計結果が他の授業—たとえば同じ言語の他の授業、同じカテゴリの専門科目など—にも見られるのかどうかは、にわかには確認しづらくなった。そこで、報告書には専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載している。

### (II) 授業担当者懇談会

本学部では、非常勤講師と専任教員で、授業担当者懇談会を令和 4 年 5 月 8 日に実施した。今年度も ZOOM で実施した。

### (III) 父母・教員懇談会

本学部では、保護者と専任教員で、父母・教員懇談会を令和 4 年 11 月 12 日に実施した。今年度も ZOOM で実施した。

### (IV) オフィスアワーの実施

本学部では学部のホームページ上の教員紹介各ページにオフィスアワーを掲示し、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。その上で、学生には以下のように URL とともに周知している。

「学生が教員の研究室を訪ねやすいように空けてある時間がオフィスアワーです。オフィスアワーの時間はアポイントメント不要です。相談したいことがあれば、下記の学部ホームページの各教員のページから曜日と時間を確認して、気軽に研究室を訪ねてください。」

以上

## (6) 短期大学部

### 1. 令和4年度短期大学部 FD 委員会の構成と活動方針

短期大学部 FD 委員会は家政3専攻から各1名、国文科から1名、英文科から1名の計5名の専任教員によって構成されている。昨年度に引き続き、以下の項目を中心にして、FD活動の実施・検討を行った。

- (1) 授業改善のためのアンケート
- (2) オフィス・アワー
- (3) ホームページ
- (4) 保証人との懇談会
- (5) 授業公開
- (6) 学習支援活動
- (7) FD 講演会、FD 研修会
- (8) 満足度調査

### 2. 令和4年度のFD活動の概要

活動の詳細は、令和4(2022)年度FD活動報告書第20号に掲載した。ここでは、その概要を記す。

#### (1) 「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。昨年度に引き続き、学内ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT (ユニバーサルパスポート)」でオンラインによるアンケート実施である。設問数全9問により実施した。アンケートの実施期間は、前期は令和4年7月11日(月)～7月23日(土)、後期は令和4年12月12日(月)～12月24日(土)であった。

昨年度との比較として学期末で見ると、短期大学部全体として、前期は履修者総数4,521人中2,389人、後期は履修者総数3,697人中2,053人から回答を得た。No.3～9までのカテゴリーの平均値は前期4.23、後期4.16であった。

#### (2) オフィス・アワーについて

各学科・専攻の専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。学生の学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだが、今年度もコロナ禍対応中であるため、zoomやEメールも活用して可能な限り対応し、きめ細かな支援を心掛けた。

#### (3) ホームページについて

本年度も短期大学部広報委員会を中心に、家政科、国文科、英文科が共同で、短期大学部ホームページの維持と管理を実施した。

今年度は昨年度、指摘されたシステムのプラットフォームの老朽化に伴う改修にかかる作業が中心に行われた。短期大学部で使用しているコンテンツ・マネジメント・システム(以下、CMSとする)については、導入後年数が経過したためセキュリティ面の不安があり、改修を行うこととなった。改修に際しては業者との相見積もりを実施して、従来からの実績も考慮して、業者選定を行い、改修を進めていくこととなった。

令和4年度のコンテンツの管理に関しては、生活総合ビジネス専攻の新任教員ページの更新、オープンキャンパスなどの実施状況、フードスペシャリスト検定における学生の成果、教員の受賞、世羅町との地域連携などの情報掲載を行った。

#### (4) 保証人との懇談会

令和4年度は、家政科3専攻が保証人との懇談会を実施した。家政専攻では、対面で実施し、1年間の学生生活の流れをはじめ、教務関係、資格関係、編入・就職活動など専攻で実施しているサポート内容をスライド、

資料配布で紹介した。今年度の保護者懇談会は、開催前の作業のスリム化と当日の新しいプログラム内容で実施され、以降の新しいフォーマットの1つが提案できたといえよう。生活総合ビジネス専攻では、Zoom利用で教職員の紹介、専攻・資格、成績表の見方、編入、就職についてなど、パワーポイントを用いて説明を行った。食物栄養専攻では、校外実習報告会へのオンライン参観形式で、2年生の保護者を対象に行われた。チャット機能で質問などを受け付けるなどし、保護者からは「オンラインでの参観は遠方に住むものにとって、ありがたい企画である。」などの意見が寄せられた。国文科、英文科は実施しなかった。

#### (5) 授業公開について

今年度も、短期大学部各学科で授業公開を実施した。家政科では専任教員全員17名が授業を公開し、国文科では専任教員の1名が、英文科では専任教員1名が公開担当した。「授業公開」に関する案内は、Eメールで周知した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施して、参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、また両者での話し合いの場を設けて意見交換をするなどして、今後の授業の改善に繋げた。

#### (6) 学習支援活動について

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生たちが学ぶ短期大学部では、学生の状況や個性をふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度もそれぞれの学科・専攻において、工夫を凝らした支援活動が実施されている。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

#### (7) 短期大学部主催 FD 講演会・FD 研修会について

FD 講演会は、「学生募集に資するFDご提案」を令和4年11月10日（木）にオンライン（zoom）で開催した。講師は池内健治氏である。学生募集についてどのような工夫を実践しているのか、具体的な事例を紹介していただいた。短期大学部の全員の教員が参加し、「非常に参考になった」との感想が寄せられた。また FD 研修会「授業改善を学生とともに考える」を令和5年2月14日（火）に対面で開催した。当日の参加者は、学生10名、教員は短期大学部の学部長、学科長、専攻主任、教務委員など教員の合計13名であった。

あらかじめ学生にはグループディスカッションのテーマを配布し、当日までに準備を依頼し、学科専攻ごとに分かれ議論した。学生からは活発な意見が寄せられ、直接学生の声を聴く貴重な機会となり、多くの示唆を得た研修会となった。

#### (8) 満足度調査について

満足度調査は、教育成果の確認と教育環境の改善・向上に役立てることを目的として例年実施しており、今年度はコロナ禍対応のため令和5年1月16日（月）～2月5日（日）にオンラインのGoogleアンケートで行った。卒業年次生を対象として無記名で実施したところ、回答の総計は146名（前年は185名）であった。「全体的にみて」の項目では、「満足」が52%（前年は28%）で「やや満足」の26%（前年は35%）を加えると78%（前年は63%）となり、概ね満足と回答している。やや不満足」と「不満足」の合計が4%と低く、評定平均は4.26であった。「満足」と答えた者の割合は、2021年度よりも26%も高くなり、全体的にみた学生の満足度は上昇した。

以上